

長崎市長 田上 富久 様

本市議会においては、定例会市政一般質問において複数の議員が、近年の夏季の高温に鑑み、小中学校の普通教室へのエアコンの設置について見解を質すなど、問題提起がなされてきました。長崎市の小中学校の普通教室へのエアコン設置率は、全国平均が約 49.6 パーセントであるのに対し、約 3.3 パーセントと極めて低い現状となっておりますが、これまでの答弁では、暑さ対策として扇風機の設置に加え、熱中症計を設置して調査しエアコンの設置について判断していくとの方針が示されておりました。

しかしながら、特にことし7月初旬以降は全国的にも猛暑が続いており、愛知県豊田市では校外学習から教室に戻った小学1年の児童が熱中症で倒れ、命を落とすという痛ましい事故も発生しています。小中学校へのエアコン設置の有無は、児童生徒の学習環境もさることながら、既に生命の危機に直結する大きな社会問題となっていることは明らかです。今や夏場の気温上昇は、気象庁も「命に危険があるような暑さで災害と認識している。」と述べるなど、国民に対し連日にわたり熱中症に対する注意喚起がなされています。

また、多くの教育施設は、豪雨・台風など災害時の避難所にも指定されており、地域の住民の防災の拠点となっている一方で、エアコン設備がないことから、避難をためらうという事案も聞き及んでいます。

このような状況も踏まえ、子どもたちの教育環境の整備と地域住民の安全安心のため、小中学校へのエアコン設置に関連し、次の項目について強く申し入れいたします。

- 1 市立小中学校の普通教室へのエアコン設置について、早急に対応すること。また、エアコン設置に当たっては、国においても財政的支援が検討されていることから、この動向を注視し、補正予算としての措置も視野に入れること。
- 2 災害時の避難所として使用されている小中学校の体育館等にはエアコンが設置されていないため、余裕教室等へエアコンを設置し、避難場所としての活用を検討すること。
- 3 市内の公共施設で開催される各種スポーツ大会において、高温注意情報が発表された場合は、子どもたちの健康面に配慮して中止することも想定されるため、そのようなケースが発生した場合には、施設利用料の払い戻しなど、市として対応を検討すること。

平成 30 年 8 月 10 日

長崎市議会議長

五輪 清隆



長崎市議会副議長

浦川 基継



長崎市議会市民クラブ代表

野口 達也



長崎市議会明政クラブ代表

毎熊 政直



長崎市議会公明党代表

向山 宗子



長崎市議会創生自民代表

吉原 孝



長崎市議会日本共産党代表

内田 隆英



長崎市議会自由民主党代表

深堀 義昭



長崎市議会チーム2020代表

幸 大助

